

# 子どもの貧困対策への新たな取組みの提案(概要)

かながわ子どもの貧困対策会議【H30. 3. 22】

## 「貧困の連鎖」を防ぎ、すべての子どもたちが将来に希望を持てる社会を目指して必要な取組み

総論 取組みに必要な5つの視点	各論 24の取組みの提案		
<p><b>1 社会全体で子どもの貧困対策に取り組む</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○貧困は、個人の努力では解消できない社会的な問題である</li> <li>○理解・協力を得て県民総ぐるみで子どもの貧困対策に取り組む必要がある</li> </ul> <p><b>2 子どもの貧困に対する2種類のアプローチの必要性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの貧困は見えにくい問題である</li> <li>○すべての子どもたちを対象としたポピュレーションアプローチと、課題を有する子どもに重点を置いたハイリスクアプローチを併用</li> </ul> <p><b>3 小さな声をキャッチする相談のあり方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○他の人に相談できないなど、「相談の壁」があることに配慮</li> <li>○気兼ねなく利用できる場所、小さな声を拾い上げる工夫が必要</li> <li>○地域の担い手の育成も必要</li> </ul> <p><b>4 子どもの自立に向けた切れ目のない支援と関係機関等の連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの貧困問題は、複雑な問題が絡み合っている</li> <li>○成長する過程で存在する支援の切れ目や、行政機関の間の切れ目をなくし、継続的かつ包括的な支援が必要</li> </ul> <p><b>5 「支え手を支える」視点の重要性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの育つ環境を整えるためには、保護者、教員など、子どもの支え手を支える視点が重要</li> </ul>	区分	提案要旨	
	1 子どもを支える取組み	(1)妊娠期から乳幼児期	① 困難を有する子を見守る体制の整備 ② 子どもの課題の早期発見 ③ 非認知能力の育成
		(2)学童期から青年前期	④ 子どもの相談環境づくり・就学援助制度等の周知 ⑤ 子どもの居場所の充実・複合的な機能を持った子どもの居場所づくり・子どもが参加しやすい学習支援 ⑥ ロールモデルとなる若者との出会いの場
		(3)青年中期	⑦ 中途退学への早期対応等・SNSの活用 ⑧ 切れ目のない支援 ⑨ スクールキャリアカウンセラーの配置拡大・制度の充実 ⑩ 生活困窮世帯等の高校中退防止対策・関係機関が連携した中途退学者等への支援 ⑪ 伴走型支援の拡大・支援ノウハウの蓄積・共有 ⑫ 奨学金等の申請支援・家計管理支援 ⑬ 高校生等奨学給付金の制度拡充
	2 支え手を支える取組み	(1)保護者への支援	⑭ 伴走型の生活支援 ⑮ 家計管理等の学習 ⑯ 保護者等の就労支援 ⑰ 支援情報の集約 ⑱ 企業等の理解促進
(2)学校・教員への支援		⑲ 地域における支援機関等の連携 ⑳ スクールソーシャルワーカーの配置拡大 ㉑ 教員に対する研修の実施	
(3)その他の支援者への支援		㉒ フォーラム等の定期開催 ㉓ 支援者に対する研修の実施	
(4)支援者の連携		㉔ ネットワークによる情報共有	